



しらさぎ橋

平成7年(1995年)7月29日に、末広橋と新海蔵橋とのほぼ中間の位置に歩道専用として開通しました。照明灯も設置されています。これにより、海蔵川の南側の野田や清水町の子どもの通学・通園や地域住民の海蔵地区市民センターの利用等への距離が相当短縮されました。橋の近くでは白鷺が翼を休めている姿が見受けられます。橋名は公募により名づけられ、橋の両脇は海蔵小学校児童の陶板作品で飾られています。



仏法山 悟眞寺

浄土宗 本尊：阿弥陀如来
天正3年(1575年)に織田信長の家臣滝川一益の兵火によって尾平村の永代寺が焼失し、その難から救い出された同寺の本尊阿弥陀如来木像(眼病で苦しむ庶民を憐れみ、平癒を祈願して彫刻されたといわれ、眼の阿弥陀様として信仰を集めた)を、その頃まで葭原であった野田の地に移し、庵を結び安置されました。これが後に悟眞寺となったとされています。平成12年(2000年)の火災により焼失しましたが、再建されて平成16年(2004年)11月に落慶法要が営まれました。

三滝川分派事業 来年3月に完了予定

- 三滝川分派事業(三重県の事業)は、三滝川が増水した時に海蔵川へ流すための「三滝新川」を整備する事業です。「三滝新川」の中に設置された越流堰(床止め工 高さ2m)以上に増水した時に海蔵川へ流れます。計画では三滝川から最大400m³/秒が「三滝新川」を通じて海蔵川へ流れ、海蔵川では上流からの510m³/秒と合わせて910m³/秒が川下へ流れます。
- 昭和20年代から30年代にかけて海蔵川の末広橋付近より下流の河道の直線化や拡幅等が、続いて昭和30年代から40年代にかけて「三滝新川」の整備が行われましたが、「三滝新川」の整備は暫定的なものでした。その後、令和元年から始まった三滝川ふるさとの川整備事業が「三滝新川」付近まで進み、令和4年度から本格整備が開始されました。これに合わせて、海蔵川では小杉橋から河口近くの新開橋までの土砂等の除去、護岸や河床を補強する工事等が行われました。また、海蔵川へ流入する堀川の内水対策事業(四日市市の事業)として海蔵保育園の南側に海蔵川への放水路が、下流部の阿倉川樋門に隣接して排水機場の整備が進められ、三滝川分派事業に合わせて完了の予定です。堀川放水路の海蔵川への流入口には令和6年に完成した西阿倉川樋門(三重県施工)があります。



※導流堤：三滝川が増水した時に、2基の導流堤により流れを「三滝新川」へ導きます。
※越流堰(床止め工)：三滝川の水は堰の高さ2mまでは海蔵川へ流れません。下記の **野田排水機場** の記事もご覧ください。

野田神社

祭神：建速須佐之男命(たてはやのすさのおのみこと)
菅原道真

野田集落の西の耕作地の中にあります。江戸時代は午頭天王社(ごずてんのうしや)と称しましたが、明治40年(1907年)の神社合祀の際、野田村にあった天満神社を併祀(へいし)して野田神社と称するようになりました。集落は農業を営む家が多くあったことから、その暦に合わせて神社の祭礼が今も行なわれています。

境内には、「平和之礎」が建立されています。



野田排水機場

三重県が野田川の増水時に三滝新川へ排水するために整備し、昭和57年(1982年)3月に完成しました。その後四日市市へ移管されました。3台のポンプにより1分間に375m³の排水能力があります。なお、通常時の野田川は、三滝新川の越流堰(床止め工)の下に敷設された導水路を通じて、三滝川に流入する水路に排水されます。



永照山 正福寺

真宗大谷派 本尊：阿弥陀如来
天台宗でしたが、永正11年(1514年)に住職 西了師が蓮如上人に皈依して転宗しました。昭和20年(1945年)6月18日の四日市大空襲で堂宇を焼失しましたが、同29年(1954年)4月に本堂を再建して入仏式が行われました。その後、末永本郷土地区画整理事業に伴い新しい本堂が建立され、平成19年(2007年)10月に落慶法要が営まれました。境内の墓地も合わせて整備されました。海蔵小学校の前身は、当寺の説教所からといわれ当時の先生のお墓が教え子たちにより明治18年(1885年)10月に建立され、釋了典法師と碑に銘されて境内の南西角にあります。



神明社

祭神：大日靈貴尊(おおひるめのみこと)
当社の棟札(建築・修築の記録)には天文6年(1537年)と記されています。伊勢神宮の分霊社として建立され、古くから「歯の神様」として奉られています。拝殿の左右には昔から約60kgと80kgの「力石」があります。昭和20年(1945年)6月18日の四日市大空襲でご神殿は焼失しましたが拝殿社務所は被災をまぬがれ、その後修復されました。

各案内文は、市制100周年[平成9年(1997年)]に作成した海蔵ふるさとマップ・地区広報かいぞうバックナンバー・海蔵小誌などを参考に作成しました。また、三滝川分派事業の案内文は、三重県四日市建設事務所・四日市市の関係課が確認済みです。